

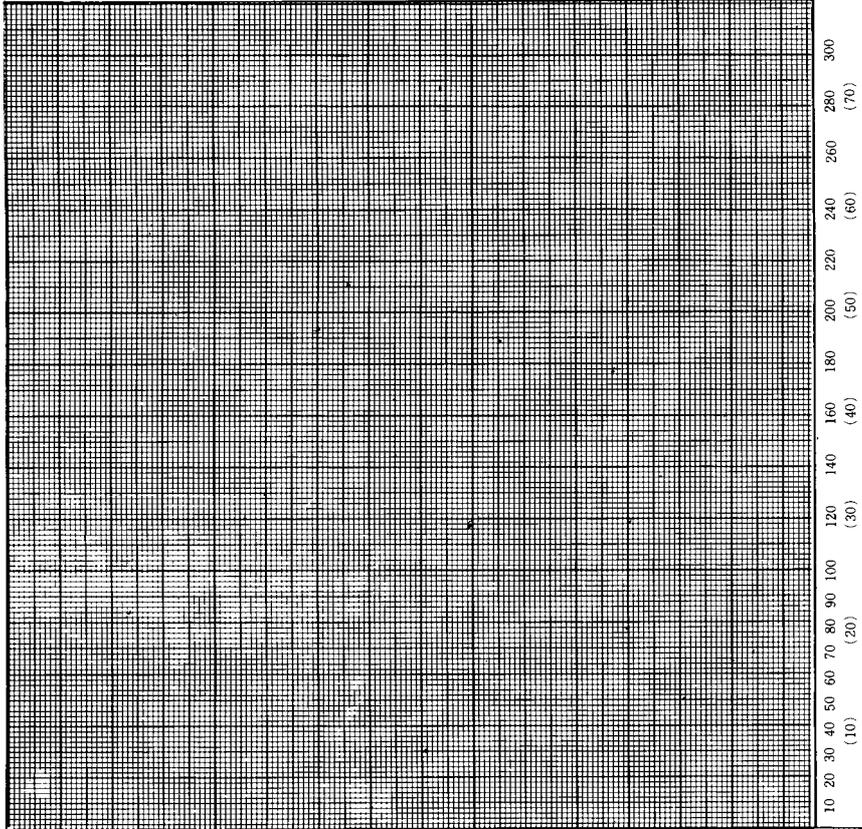
様式-31

プレスストレッチング管理表(1)

緊張年月日	平成	年	月	日
けた番号	No			
ケーブール No	C			
緊張順序				

測定者

圧力計 (kg/cm ²)	伸び (mm)		合計
	方	方	
P ₂	Δℓ	Δℓ	ΣΔℓ
300			
250			
200			
150			
100			
50			
0 補整			
補整全伸び			



コンクリート打設	年	月	日
コンクリートの圧縮度	σ =	N/mm ² (自然養生)	
	σ =	N/mm ² (養生)	
支間中央最終戻り値	mm		
短縮量	mm		

緊張上の特記事項	
晴	曇
雨	気温 ℃

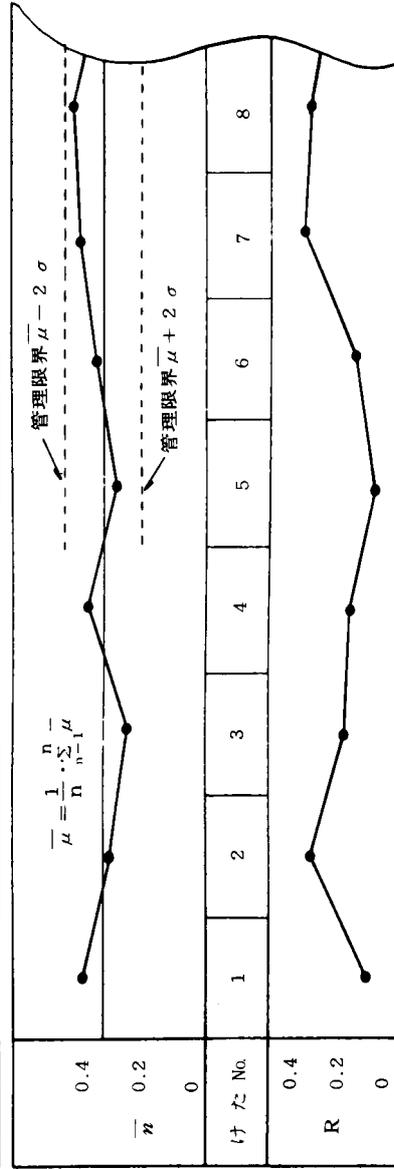
様式-32

プレストレッシング管理表(2)

(PCケーブルの組による管理)

けた番号	1	2	3	4
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40	0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45		
μ の平均値($\bar{\mu}$)	0.375	0.272		
μ の範囲(R)	0.13	0.35		

けた番号	8	9	10	11
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29			
μ の平均値($\bar{\mu}$)	0.378			
μ の範囲(R)	0.35			



高力ボルト締付け検査記録票

検査年月日	年月日	測定者	①			
高力ボルトの種類	F I O T	締付けボルト軸力	$20.5 \times 1.1^2 = 22.5 \text{ kg} \cdot \text{m}$			
インパクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタフミによる型 ダイヤル目盛型	社製 社製 社製 社製	トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)	所用軸力になるための トルク値 $T = 0.123 \times 2.2 \times 22,500$ $= 6,100 \text{ kg} \cdot \text{cm}$			
インパクトレンチの検定		算出トルク係数	No. 1 0.121 No. 2 0.128 No. 3 0.128 No. 4 0.124 0.128 0.126			
午 前 (作業開始前)	午 後 (作業開始前)	測定軸力	No. 1 24.0 No. 2 22.0 No. 3 21.5 No. 4 22.0 22.0			
6,180	6,200	測定トルク値	6,400 6,200 6,100 6,000 6,200			
6,100		測定トルク係数	0.121 0.128 0.128 0.124 0.128 0.126			
検査本数	測定トルク (T)	測定トルク値	平均	誤差	許容トルク値	$T_a = T \times (1 \pm \alpha^{\circ})$
4本 24本中	6,100	2~0 6,700	25,200	3.3%	U.Fling	
5本 48本中	"	10~11 6,100	31,600	3.6%	L.Fling	
5本 48本中	"	12~13 6,100	31,700	2.0%	Web	
4本 24本中	"	16~17 6,400	25,100	2.8%		
		6,400				

様式-34

キャンバナー測定記録表

工程	測定箇所	測 定 者		
		架設後	④	④
計画高(製作時)			地覆・高欄	④
鋼げた	計画高			
架設	施工高			
完了時	差			
床版	計画高			
打設	施工高			
完了時	差			
高欄	計画高			
地覆	施工高			
完了時	差			
舗装	測票高			
完了時	計画高			
	施工高			
	差			

注. 地覆施工時、地覆部に接点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。
 測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

様式-35

膜厚測定記録

塗装系		系					測定日時	年月日		
測定時間		工場後	現場後			測定者		㊟		
構造名							目標塗膜厚合計			
測定位置	測定値	1	2	3	4	5	平均 X_i	平方根 $\bar{X} - X_i$ $(\bar{X} - X_i)^2$		備考
G ₁ -1	A									
	B									
	C									
	D									
	E									
	F									
	G									
	H									
	I									
	J									
	K									
	L									
	M									
	N									
合計								合計		
平均値 $\bar{X} =$										

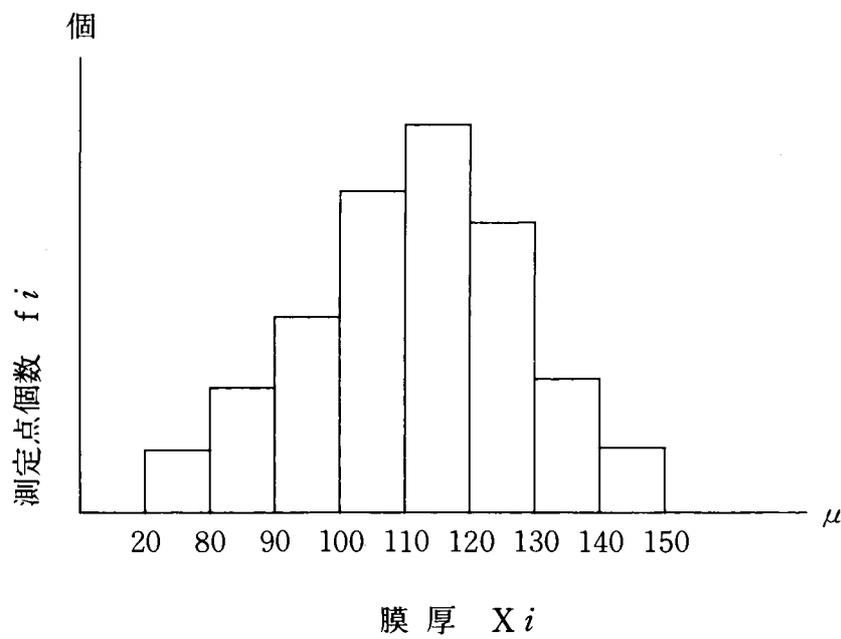
平均値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	

様式-36

塗膜厚の度数分布表

記録者 _____ ⑩

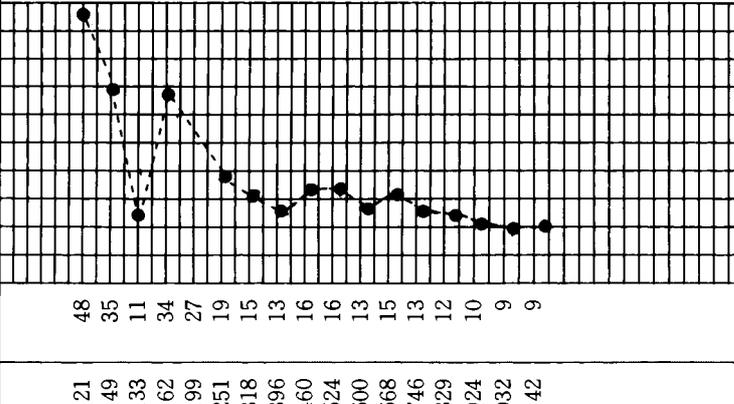
膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i	膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i
20 ~ 29		110 ~ 119	
80 ~ 89		120 ~ 129	
90 ~ 99		130 ~ 139	
100 ~ 109		140 ~ 149	
		合 計	



様式-37

くい打込み記録表 (記載例)

くい番号 №		記録者										印		
年	月	日	天候	気温	℃	土質	N	標高 (m)	貫入深さ (m)	撃回数とセンチの打撃計	貫入当り量 (mm)	100cmごとの1打撃当り貫入量 (mm)	落下高の (cm)	ンリドバ量 (mm)
くい打機諸元		ディーゼルハイラムハンママー D-12												
長さ	15.0m	貫入深さ	※17.0m	径	600mm									
管厚	9+12mm	作業時間	7'00"~10'20"	作業時間合計	3時間20分									
溶接時間	58'+47"=105'	総打撃数	2,740回											
貫入量	0.8cm	リバウンド量	0.6cm	ラム落下高	110cm									
支持力 (支持力の算定は次頁による)														
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/100								
記事 ※ヤットコ φ600mm L=4.00mを使用 ※.....※ Kは継手位置														



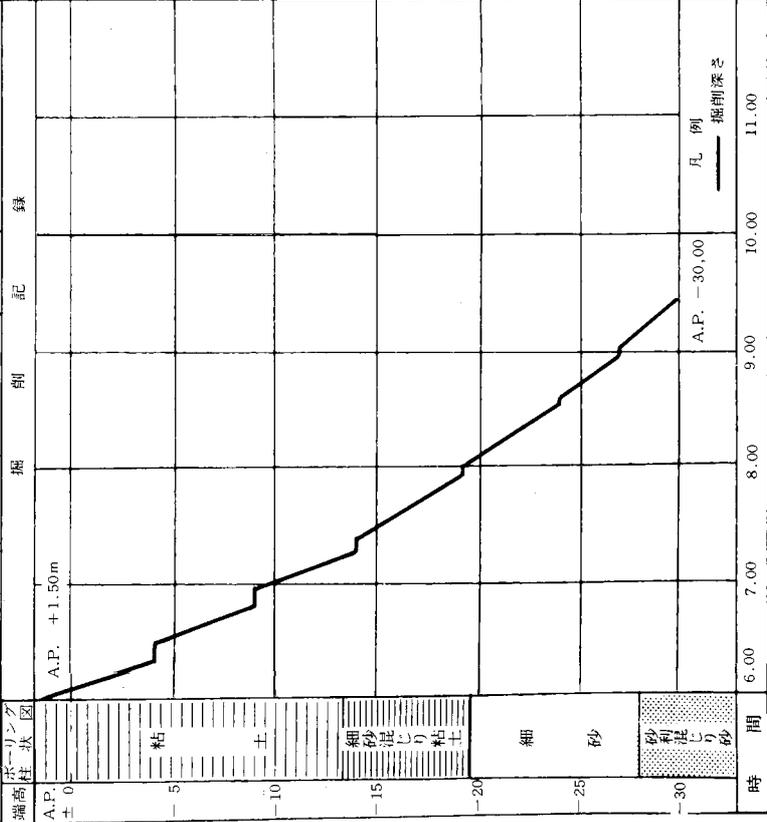
様式-40

場所打ちぐい管理記録図(例)

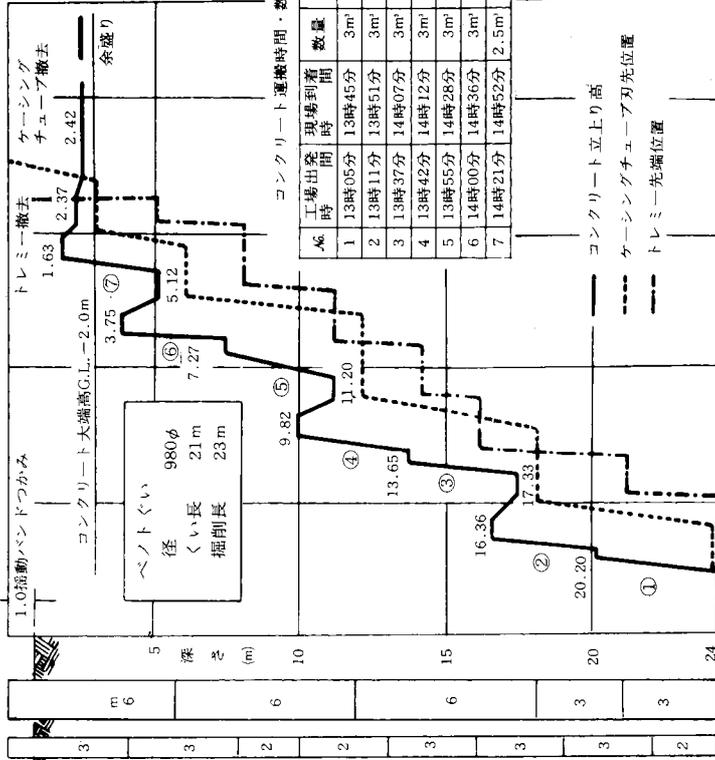
制定者 〇

平成元年7月1日 天気 はれ 気温 21℃
 基礎種別 P₁ ぐい番号 P₁-3 ぐい寸法 径100・30m
 掘削機機種 ベント EDF55

機械すえ付高 A.P.+1.20m	支保層土質名 砂利混じり砂	掘削 孔内水位の変動に注意した。
鉄筋天端高 設計A.P.+1.12m	コンクリート天端高 A.P. ± 0 m	鉄筋 鉄筋かこの実あかりが見られる
施工A.P.+1.13m	施工 A.P.+1.00m	特記事項 沈下物 孔底に水中ポンプを設置し 処理 排水匯換を実施した。



ぐい番号



コンクリート運搬時間・数量法

№	工場出発時間	現場到着時間	数量	記事
1	13時05分	13時45分	3m ³	
2	13時11分	13時51分	3m ³	
3	13時37分	14時07分	3m ³	
4	13時42分	14時12分	3m ³	
5	13時55分	14時28分	3m ³	
6	14時00分	14時36分	3m ³	
7	14時21分	14時52分	2.5m ³	

--- コンクリート立上り高
 - - - ケーシングチューブ刃先位置
 - - - - - トレミー先端位置

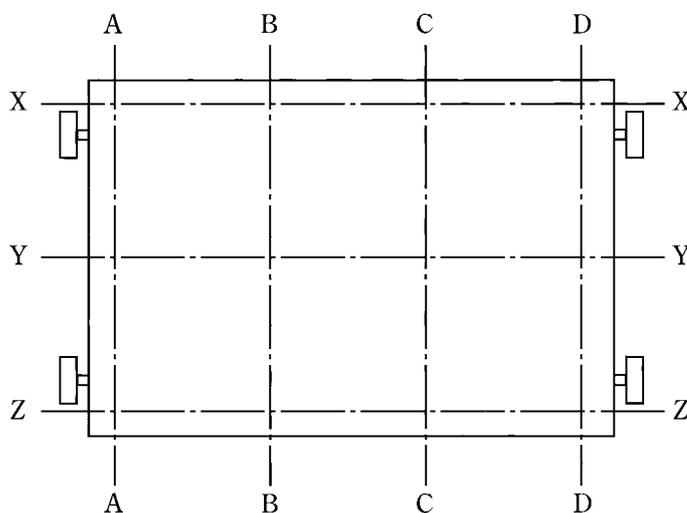
13時30分 14時00分 14時30分 15時00分 15時30分

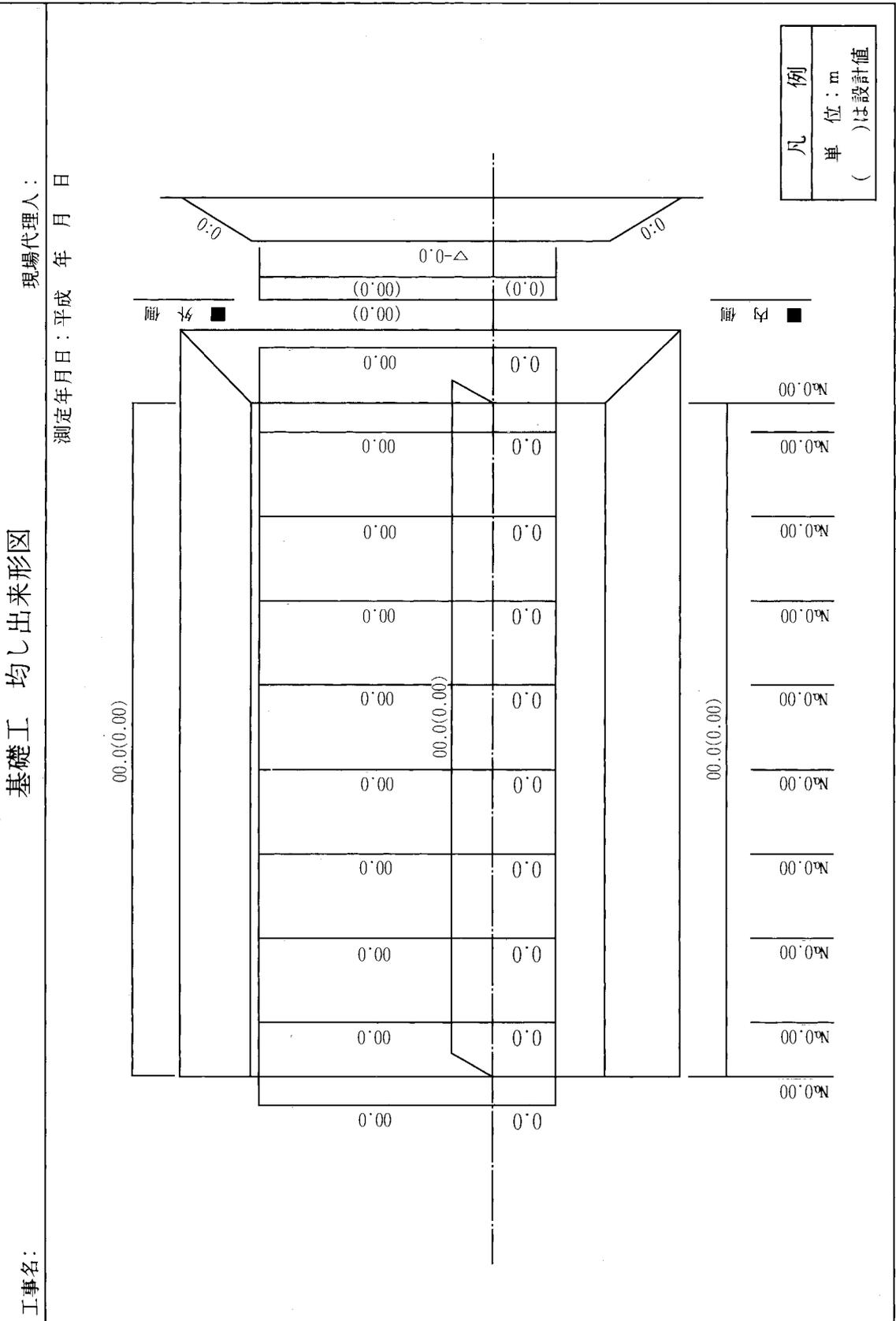
ケチ
 トレミー
 ケーシング
 グ配置

様式-45

水門出来形記録表

工 事 名	((例) ○ ○ 水 門 新設第○期工事						
測 定 時 期	(例) 現 場 塗 装 完 了 後 日						
測 定 箇 所	(例) ○ ○ ゲート 扉 体 前 面						
測 定 結 果	(標準膜厚) ○ ○ (最低膜厚) ○ ○						
測 定 年 月 日				測 定 者			
測 定 値							
測 定 位 置	1 (上)	2 (下)	3 (左)	4 (右)		平 均	最 低 値
(例)1 A-X							
2 A-Y							
3 A-Z							
4 B-X							
5 B-Y							
6 B-Z							
7 C-X							
8 C-Y							
9 C-Z							
10 D-X							
11 D-Y							
12 D-Z							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
標準膜厚	—	—	—	—	—	(平均)	—

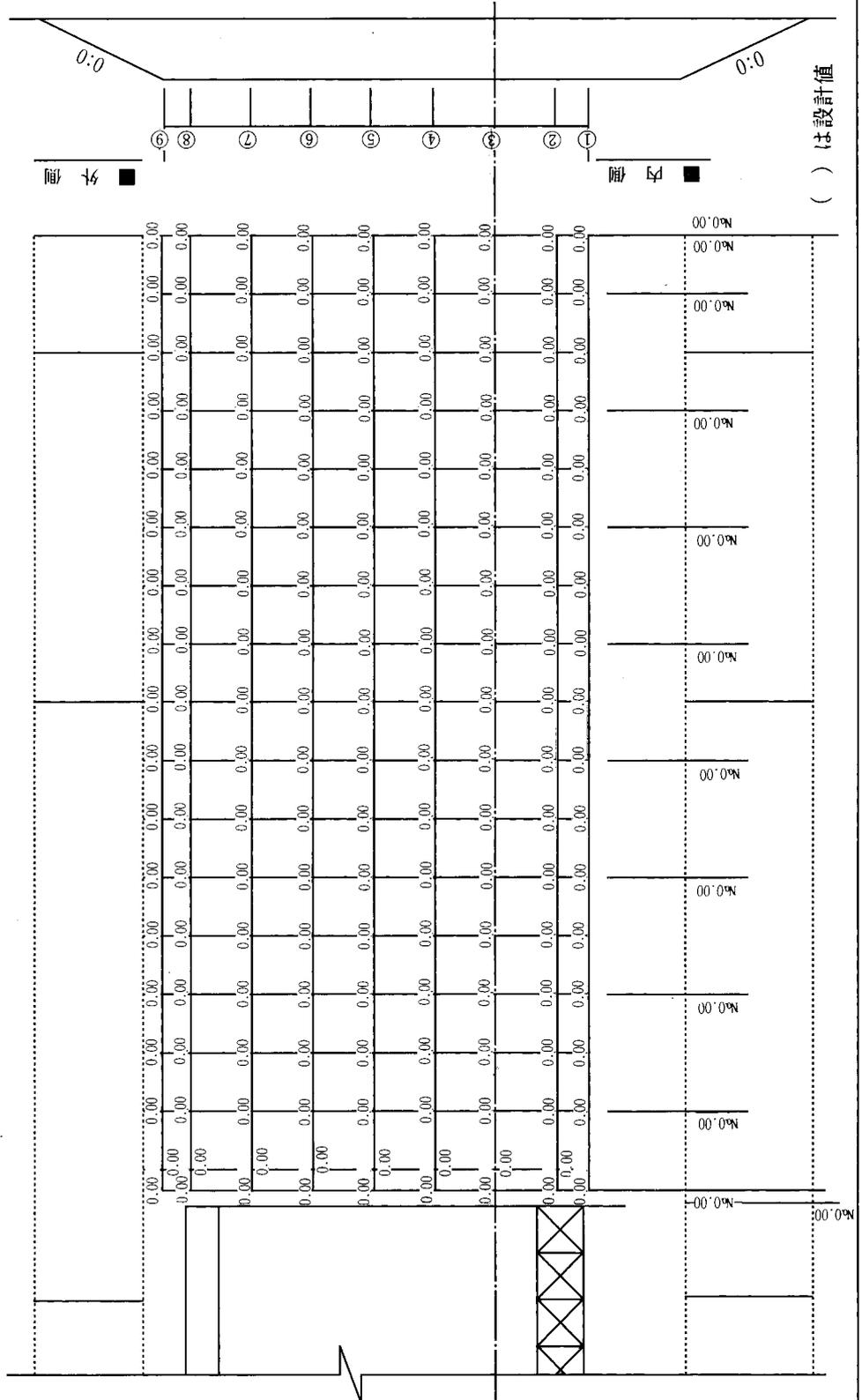




基礎工 均し出来形平面図

現場代理人：
測定年月日：平成 年 月 日

工事名



ケーソン製作管理表

様式-52

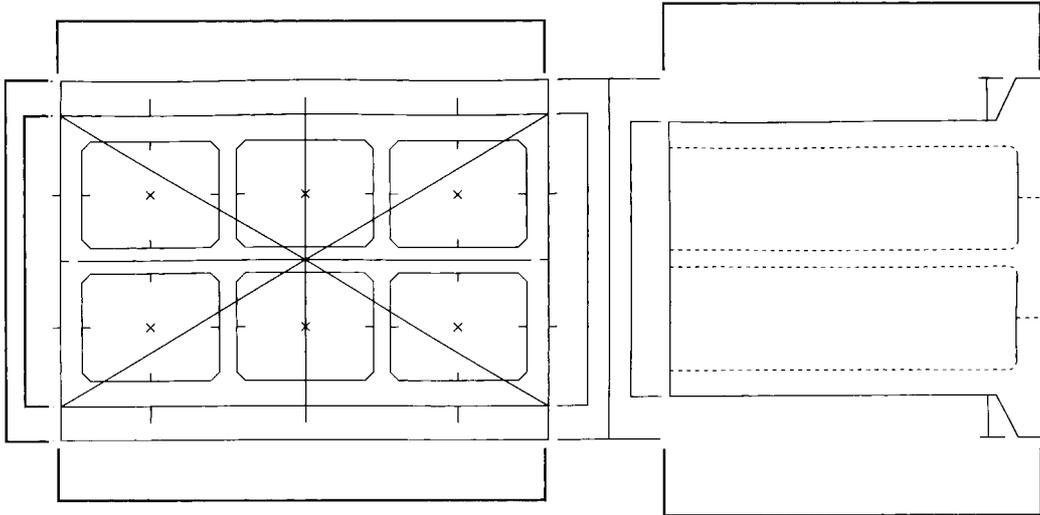
工事名 _____

平成 年 月 日

現場代理人 _____

㊞

ケーソン製作確定位置



ケーソン出来形管理表

ケーソンNo.

測定月日		月日	月日	月日	月日	月日	月日
測定位置	設計値	底版	各層	各層	各層	各層	天端層
高さ							
幅		両端、中央	中央	中央	中央	中央	4階
長さ		〃	〃	〃	〃	〃	両端、中央
壁厚		—	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
底版厚さ		各室中央	—	—	—	—	—
フーチング高	(1)		—	—	—	—	—
	(2)		—	—	—	—	—
対角線			—	—	—	—	—

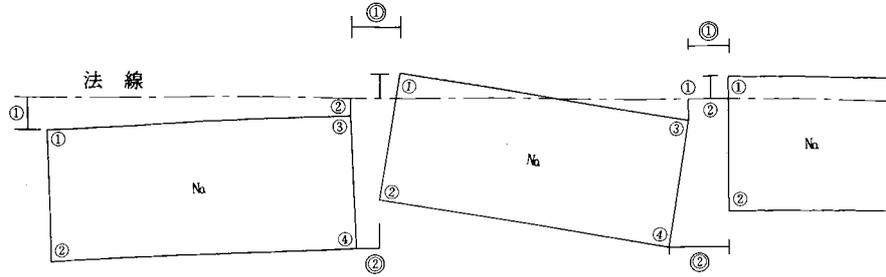
工事名

平成 年 月 日

現場代理人



ケーソン据付測定位置



ケーソン据付出来形管理表

ケーソン 番号	法線に対する出入			据付目地間隔			据付時天端高さ		
	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値
No.1	①						①		
							②		
	②						③		
							④		
No.2	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.3	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.4	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.5	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.6	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		

ブロック製作出来形管理表 (記人例)

工事名	ブロック名						現場代理人								
	長さ	高さ	幅		高さ		その他の								
製作番号	B1	B3	A1	A3	C1	C3	C5	C7	D1	D3	E1	E3	F1	F3	備考
	B2	B4	A2	A4	C2	C4	C6	C8	D2	D4	E2	E4	F2	F4	
規定寸法	250	250	150	150	150	150	10	10	30	30	10	10	110	110	
No.1	251	251	150	151	150	150	9	10	30	30	10	10	110	111	
No.2	251	250	151	151	150	151	10	10	30	30	10	10	111	110	

中詰・蓋コンクリート出来形管理表

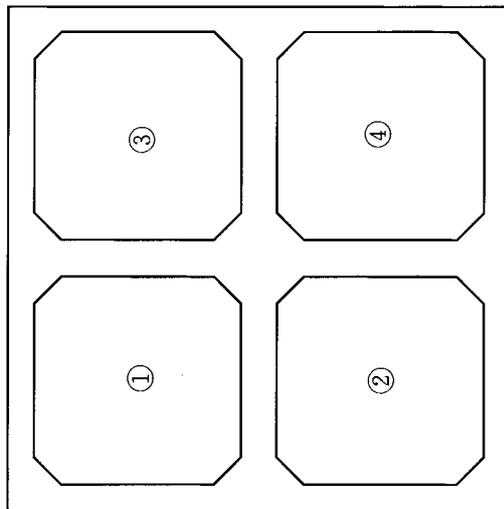
工事名 _____

平成 年 月 日

ケーソンNo. _____

現場代理人 _____

印

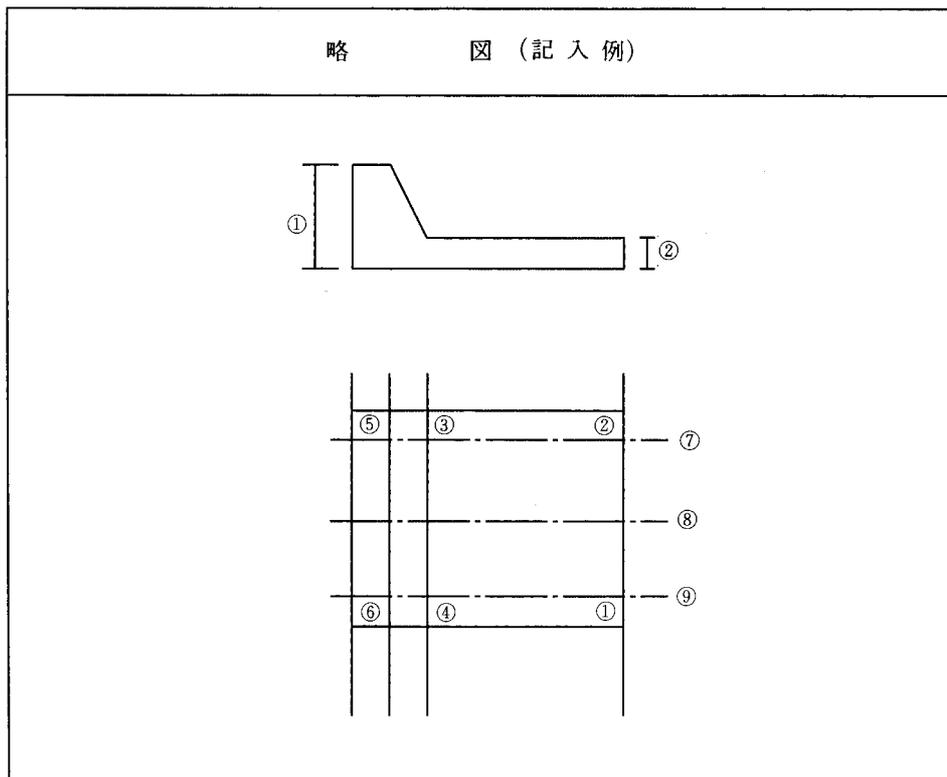


項目 番号	ケーソン天端よりの値		(B)-(A)	備考
	実測値 (A)	設計値 (B)		
①				評容範囲±〇cm
②				
③				
④				

上部コンクリート出来形測定表

工事名 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

スパン No.	測定月日	測定結果			
		天端高 又は厚さ	天端幅	延長	出入



洗掘防止マット出来形測定表

様式-57

工事名 _____

平成 年 月 日

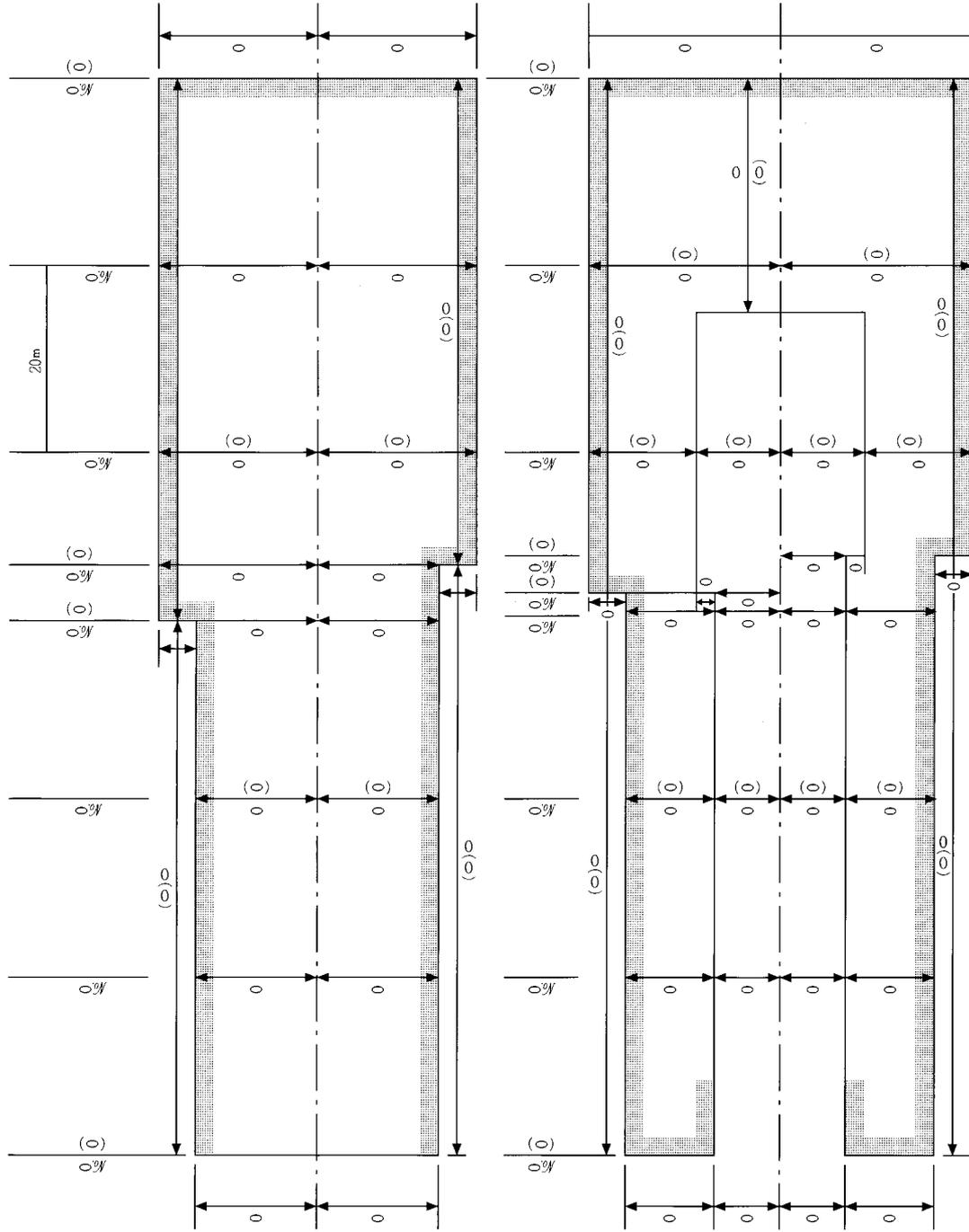
現場代理人 _____

㊟

マ ッ ト №	敷 設 月 日	測 定			結 果		備 考
		敷 設 入 置	重 ね 幅	定 幅	敷 設 幅	延 長	

注) 敷設置マット№設計測線と関連づけて記入、重ね幅の記入は監督員の指示による。
延長は、測定区間、全長を関連づけて記入。

出來形平面圖

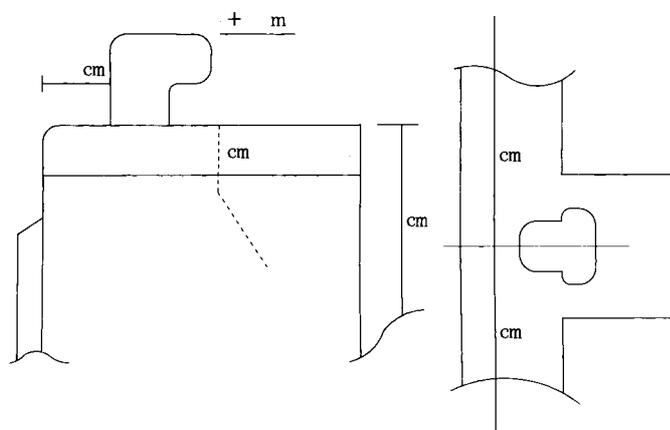


凡例
 測線番号
 0 } 測定值
 (0) 設計值

係船柱出来形管理表

工 事 名	
年 月 日	平成 年 月 日
現場代理人	印

係船柱測定位置図



係船柱出来形管理表

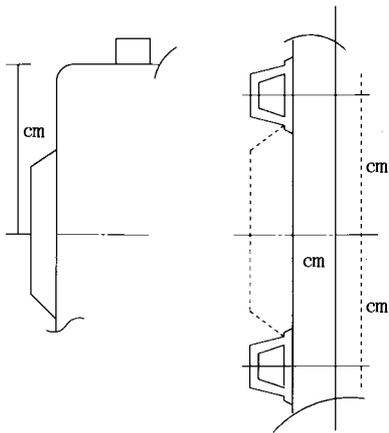
番 号	法線に対する出入	天 端 高	中心間隔	基礎コンクリート(直柱)		
				幅	長さ	高さ
基 点 0 より	—	—		—	—	—
No 1						
No 2						
No 3						

様式-60

防舷材出来形管理表

工事名	
年月日	平成 年 月 日
現場代理人	(印)

防舷材測定位置図



防舷材出来形管理表

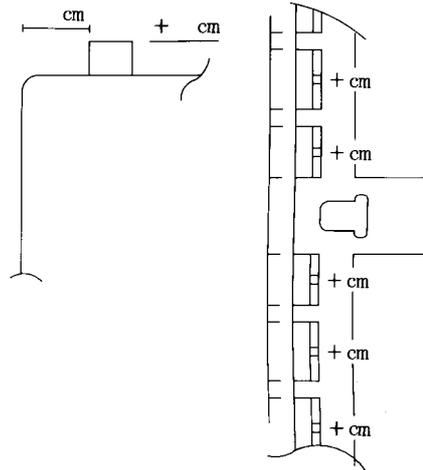
番号	取付高さ	中心間隔
基点 0より	—	
No. 1		
No. 2		
No. 3		
No. 4		

様式-61

車止め出来形管理表

工事名	
年月日	平成 年 月 日
現場代理人	(印)

車止め測定位置図

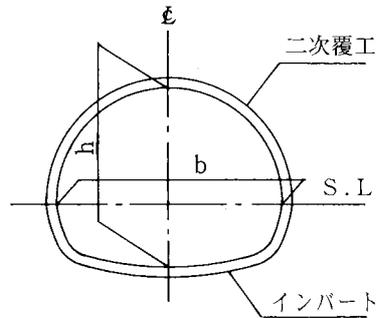
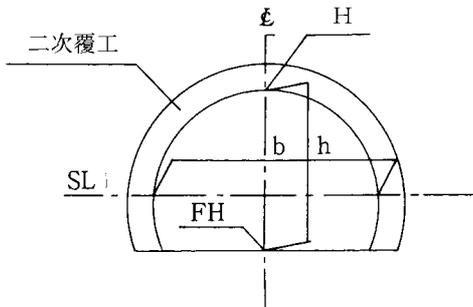


車止め出来形管理表

番号	法線に対する出入	天端高	取付間隔
基点 0より			
No. 1			
No. 2			
No. 3			
No. 4			

トンネル内空断面出来形測定結果表

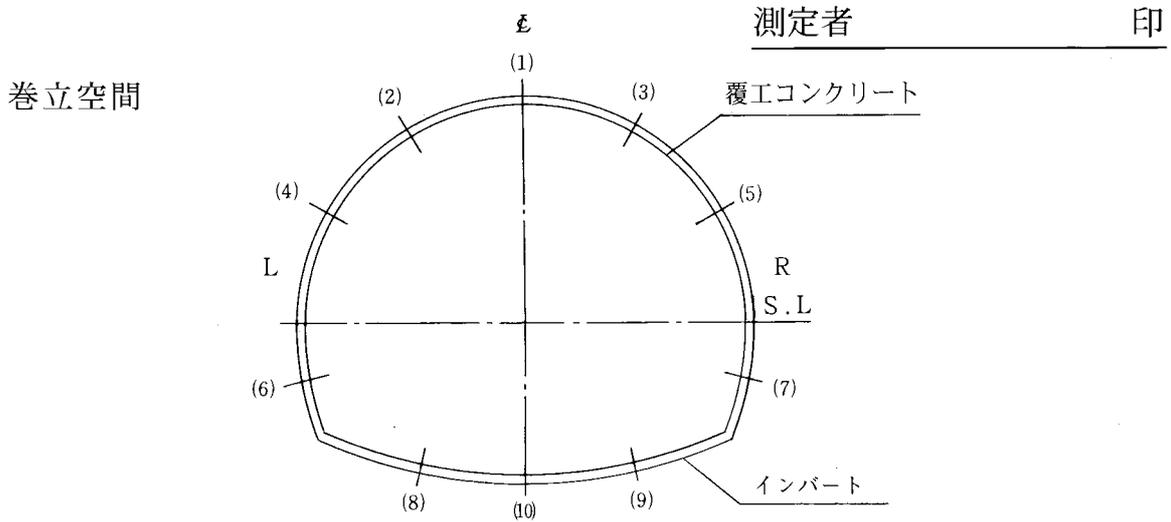
測定者 _____ 印 _____



測 点	基準高 H (m)			高さ h (m)			全 幅 b (m)			備 考
	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	
規格値範囲	±50mm			-50mm			-50mm			

記 事：
 ※ 施工延長40m以内につき1箇所。

二次覆工打設前巻立空間測定結果表



測定区間		SP= _____ ~SP= _____											
地山分類		設計覆工厚A				アーチ: _____ cm		インバート: _____ cm		規定値範囲		設計覆工厚以上	
中測	点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均值	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均值
	測定厚B(cm)												
間	設計厚との差 B-A(cm)												
終点	点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均值	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均值
	測定厚B(cm)												
点	設計厚との差 B-A(cm)												

記事:

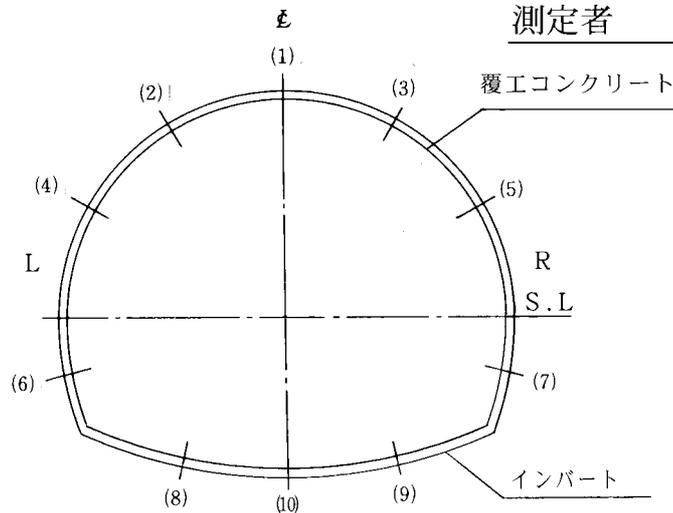
- ※ 1 打設長の間と終点を図に示す各点で測定。
- ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
 - 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
ただし、変形が収束しているものに限る。
 - 2) 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
 - 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

二次覆工出来形測定結果表

二次覆工端部

測定者 _____

印 _____



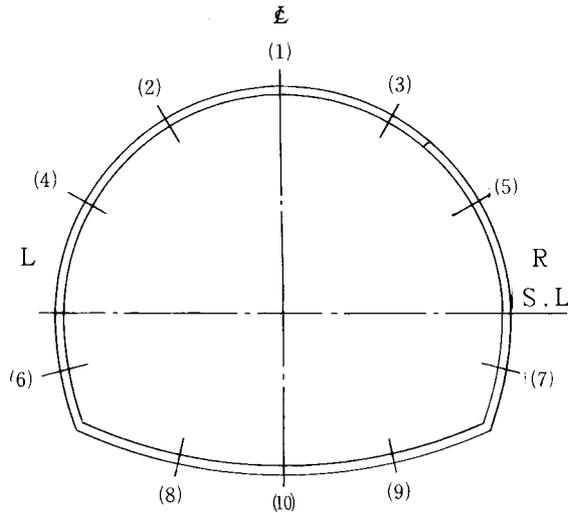
測定区間	SP = _____		~SP = _____											
地山分類					設計覆工厚A	アーチ:	cm	インバート:	cm	規定値範囲	設計覆工厚以上			
覆工端部	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート				
										(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B (cm)													
	設計厚との差 B-A (cm)													

記 事： ※ 1 打設長の端面において図に示す測点。
 ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
 ただし、変形が収束しているものに限る。
 2) 異常土圧による覆工圧不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

吹付コンクリート出来形測定結果表

測定者 _____

印 _____



測定区間	SP = _____					
地山分類	設計吹付厚A		cm	規定値範囲	設計吹付厚以上	
測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	平均値
測定厚 B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						
測点	(6)	(7)	平均値	(8)	(9)	(10) 平均値
測定厚 B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						

記事:

- ※ 施工延長10m毎また、断面変化点毎に1断面。
- ※ 良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を規定値とする。

様式-66

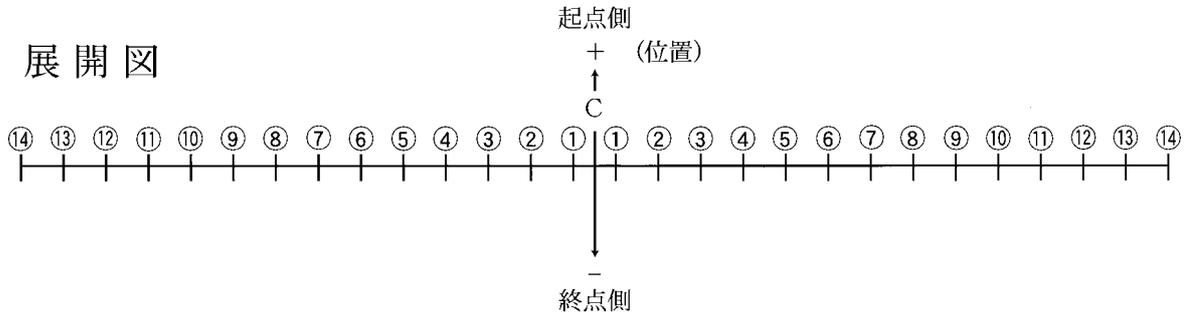
ロックボルト出来形測定結果表 (1)

測定断面 SP =

測定者

印

展開図



ロックボルト位置(延長方向)		設計値	ロックボルト深さ				設計深さ		
L 側	設計位置から の変移(cm)	R 側	設計位置から の変移(cm)	L 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)	R 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)
①		①		①			①		
②		②		②			②		
③		③		③			③		
④		④		④			④		
⑤		⑤		⑤			⑤		
⑥		⑥		⑥			⑥		
⑦		⑦		⑦			⑦		
⑧		⑧		⑧			⑧		
⑨		⑨		⑨			⑨		
⑩		⑩		⑩			⑩		
⑪		⑪		⑪			⑪		
⑫		⑫		⑫			⑫		
⑬		⑬		⑬			⑬		
⑭		⑭		⑭			⑭		
平均		平均		平均			平均		

記事:

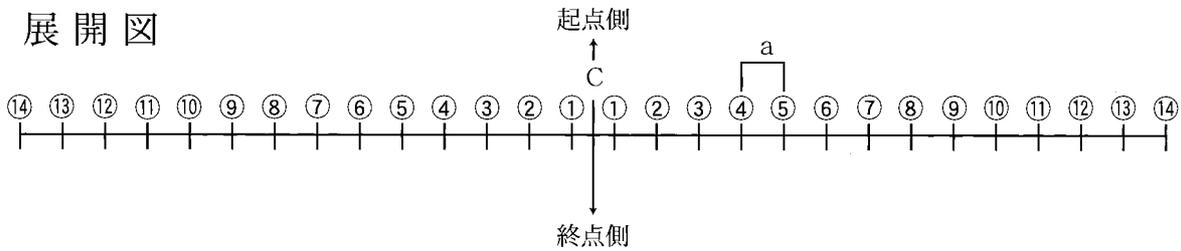
※ 施工延長40m以内につき1箇所。

様式-67

ロックボルト出来形測定結果表 (2)

測定断面 SP = _____ 測定者 _____ 印 _____

展開図



ロックボルト間隔 (周方向)

測計値 (cm)	測定箇所L側	測定値 (cm)	設計値との差 (cm)		測定値 (cm)	設計値との差 (cm)	備考
	CL~①			CL~①			
	CL~②			CL~②			
	CL~③			CL~③			
	CL~④			CL~④			
	CL~⑤			CL~⑤			
	CL~⑥			CL~⑥			
	CL~⑦			CL~⑦			
	CL~⑧			CL~⑧			
	CL~⑨			CL~⑨			
	CL~⑩			CL~⑩			
	CL~⑪			CL~⑪			
	CL~⑫			CL~⑫			
	CL~⑬			CL~⑬			
	CL~⑭			CL~⑭			
	CL~			CL~			
	平均			平均			

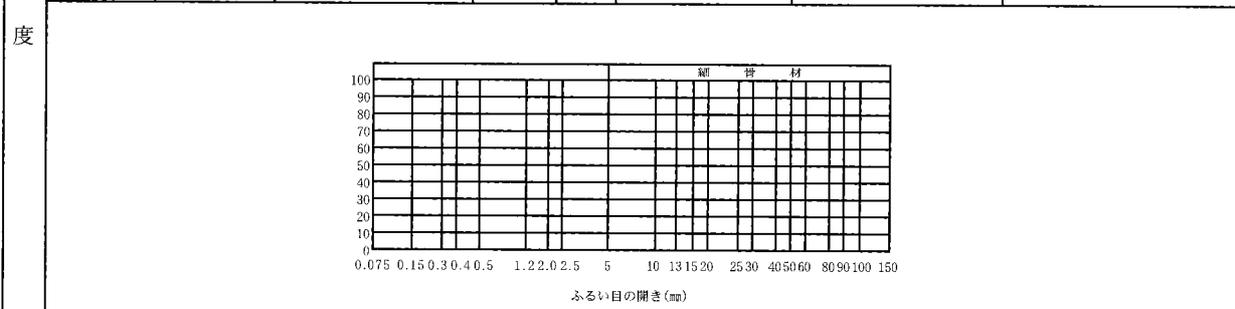
記事： ※ 施工延長40m以内に1箇所。
 ※ 設計値については、以下のとおりとする。

① $L = a/2$ ②~ $L = na + a/2$

細骨材の種類

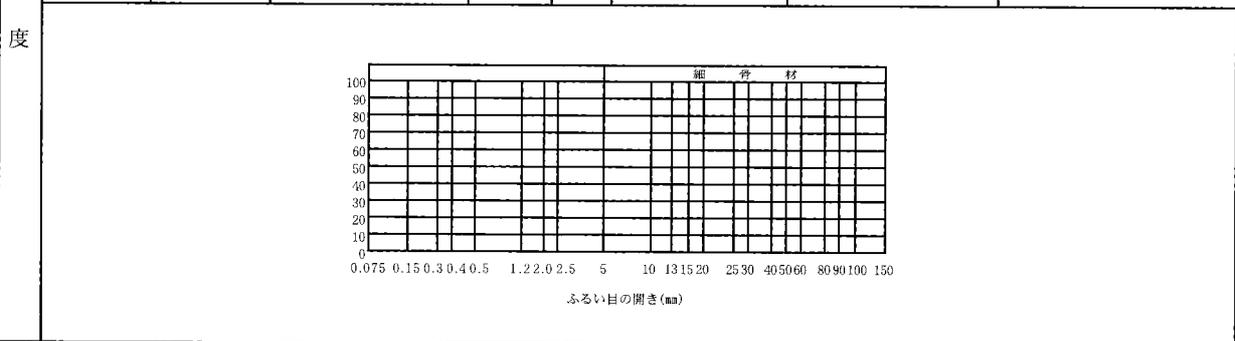
採取責任者	印	採取地	採取年月日	年	月	日
測定者	印	試験場所				

項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒 ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102	骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100
	5					90~100
	2.5					80~100
	1.2					50~90
	0.6					25~65
	0.3					10~35
	0.15					2~10
	—					合計
粗粒率	—	—	—	—	—	



採取責任者	印	採取地	採取年月日	年	月	日
測定者	印	試験箇所				

項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒 ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102	骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100
	5					90~100
	2.5					80~100
	1.2					50~90
	0.6					25~65
	0.3					10~35
	0.15					2~10
	—					合計
粗粒率	—	—	—	—		



様式-69 (トンネル工)

吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書

打 設 位 置				材令	1日	測 定 者	印				
養 成 環 境	時 期	気 温 °C		湿 度 %		使 用 材 料	セメント				
	供試体作成時						細骨材	(比重:)			
	引抜き試験時						粗骨材	(比重:)			
配 合	粗骨材の 最大寸法 (mm)	スランブ の範囲 (cm)	空気量の 範囲 (%)	水・セメン ト比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)					
						水	W	セメントC	細骨材S	粗骨材G	急 結 剤
示方配合											
現場配合											
記 事:											
供試体番号		1		2		3		備 考			
上部直径 D (mm)	1	平 均		平 均		平 均					
	2										
下部直径 W (mm)	1										
	2										
コーン高さ H (mm)	1										
	2										
コーンのせん断 面積A (mm ²)											
供試体破壊形状											
油圧シリンダー 受圧面積a (mm ²)											
引抜きせん断力 PL (N/mm ²)											
最大引抜き力 P=PL×a (N)											
圧縮強度の換算 係数 a		4.0		4.0		4.0					
圧 縮 強 度 σ (N/mm ²)											
平均圧縮強度 σ (N/mm ²)											
備 考:											
		※ σ ₁ =5N/mm ²									
		※ 1回/40m									

様式-70 (トンネル工)

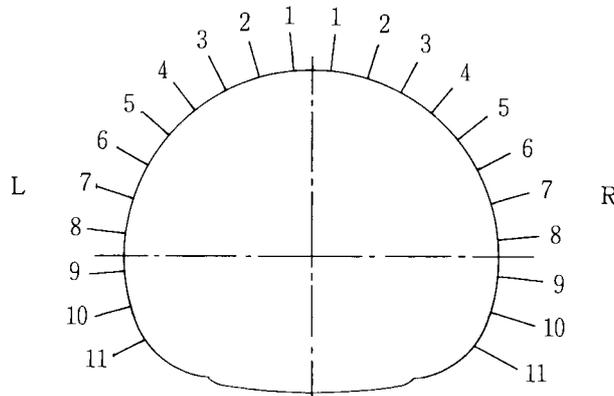
ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表

ロックボルト	ルーフボルト	規定値A : 180 (+20mm)	測定者	印
測点	パターン	フロー値B (mm)	規定値との差 (B - A)	備考
SP				

様式-71 (トンネル工)

ロックボルト定着確認試験成績報告書

試験位置	SP=	測定者	印
------	-----	-----	---



填充剤		パターン	
ロックボルト		岩質	
試験方法	A. トルクレンチ法 B. センターホールジャッキ法		

試験箇所	試験方法	引張力	試験結果	備考
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	

記事:

- ※ 試験方法はトルクレンチ法・センターホールジャッキ法のA・Bいずれかに○をつける。
- ※ 図に照らし合わせて周方向の試験箇所を記入する。
- ※ 試験結果の合否に○をつける。
- ※ トルクレンチ法：5本/40m、センタージャッキ法：2本/80m

試験盛土による盛土締固め総括表（様式例）

様式一自1

測定	土質 種別	転圧 回数	前進第二速		総重量		履帯中心距離	
			cm	km/H	km/H	kg/cm ²	kg/cm ²	mm
			後進第一速		接地圧		履帯巾×接地長	
			km/H		kg/cm ²		mm	
			試験盛土の試験値		施工個所盛土の試験値			
			締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率
			%	%	%	%	%	%
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						

(注) 1. 築堤試験盛土等の様式例である。
 2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

コンクリート強度試験表
(シュミットテストハンマーによる)

		監督員

工 事 名

試験月日

材 令

受注者

印

測定者

印

No.	名 称	反 撓 度																				20 回 の 計	平均値	換算強度 kg/cm ²	
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回	16 回	17 回	18 回	19 回	20 回				

ひび割れ調査票 (1)

工 事 名	
受 注 者 名	
構 造 物 名	(工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)
現 場 代 理 人 名	
主 任 技 術 者 名	
管 理 技 術 者 名	
測 定 者 名	

位 置	測定NO		
構 造 物 形 式			
構 造 物 寸 法			
竣 工 年 月 日	平成	年	月 日
適 用 仕 様 書			
コ ン ク リ ー ト の 種 類			
コ ン ク リ ー ト の 設 計 基 準 強 度	N/mm ²	コ ン ク リ ー ト の 呼 び 強 度	N/mm ²
海 岸 からの 距 離	海上、海岸沿い、海岸から km		
周 辺 環 境	工場、住宅・商業地、農地、山地、その他 ()		
周 辺 環 境	普通地、雪寒地、その他 ()		
直 下 周 辺 環 境	河川・海、道路、その他 ()		

構造物位置図 (1 / 5 0 , 0 0 0 を標準とする)

添付しない場合は
(別添資料 - 参照) と記入し、資料提出

ひび割れ調査票 (2)

構造物一般図

添付しない場合は
(別添資料 - 参照) と記入し、
資料提出

ひび割れ調査票 (3)

ひび割れ	有, 無	本数: 1 ~ 2本, 3 ~ 5本, 多数 ひび割れ総延長 約 m 最大ひび割れ幅 (で囲む) 0.2mm以下, 0.3mm以下, 0.4mm以下, 0.5mm以下, 0.6mm以下, 0.8mm以下, _____ mm
		発生時期 (で囲む) 数時間 ~ 1日, 数日, 数10日以上, 不明
		規則性: 有, 無
		形態: 網状, 表層, 貫通, 表層or貫通
		方向: 主鉄筋方向, 直角方向, 両方向, 鉄筋とは無関係
		(Empty space for additional notes)

ひび割れ調査票（4）

ひび割れ発生状況のスケッチ図

添付しない場合は
（別添資料 - 参照）と記入し、
資料提出

ひび割れ調査票 (5)

構造物名 (工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)

ひび割れ発生箇所の写真

添付しない場合は
(別添資料-〇参照) と記入し、
資料提出